

令和5年度 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 6月 30日

事業所名 はろー！わーど

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100.0%	0.0%	0.0%	指導訓練室を広く取り室内でも活動ができるようにしている。また新しく部屋を作り制作や学習等の活動ができるスペースを設けている。
	2	職員の配置数は適切である	100.0%	0.0%	0.0%	配置基準以上の人員数は満たしている。子供の様子や活動内容によって人手が必要な時は、柔軟な応援体制を組んでいる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	80.0%	20.0%	0.0%	対応可能な限りのバリアフリーは行っている。建物の構造上対応できない部分がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	70.0%	30.0%	0.0%	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%	評価表を保護者様に配布し、調査を依頼・実施している。また結果はHPにて公表している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100.0%	0.0%	0.0%	自己評価表をホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0.0%	60.0%	40.0%	外部評価等は実施していないが、外部からの意見等には真摯に対応している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80.0%	20.0%	0.0%	可能な限り積極的に参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%	0.0%	0.0%	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	70.0%	30.0%	0.0%	標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの適応行動の状況把握を行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100.0%	0.0%	0.0%	意見交換しながら立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%	0.0%	0.0%	季節に合った活動や行事、子供達の希望を取り入れながら計画している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100.0%	0.0%	0.0%	平日の活動、学校休業日の活動を決めて、それぞれ支援をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%	0.0%	0.0%	子どもの特性に応じた内容で作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80.0%	20.0%	0.0%	支援開始前は、時間を取り支援内容や役割分担の打ち合わせをしている。また送迎表などを活用し職員の動きを明確にしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%	0.0%	0.0%	グループLINEを活用し情報を共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%	日々の記録を作成し、管理者・児発管がチェックしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100.0%	0.0%	0.0%	定期的実施し計画の見直しも、その都度行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100.0%	0.0%	0.0%	個別と集団の必要性を配慮した上で支援を行っている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%	0.0%	0.0%	管理者を中心として会議前に職員とミーティングを行い、利用者様の日々の状況を丁寧に説明できるようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100.0%	0.0%	0.0%	学校に問い合わせ下校時間を把握したり、電話・SNSを利用し保護者様と連絡を取りながら情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0.0%	0.0%	100.0%	該当児童がいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	70.0%	30.0%	0.0%	相談支援員、保護者様と連携しながら情報共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	30.0%	70.0%	0.0%	開所してから障害福祉サービスへ移行されたのが2名のみなので今後の課題である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80.0%	20.0%	0.0%	問題があればその都度連絡し、助言を得ている。研修にも参加し、知識や技術の習得に努めている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	60.0%	40.0%	0.0%	地域のイベントに参加し、地域の方々との交流を深める機会を作っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0.0%	50.0%	50.0%	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	90.0%	10.0%	0.0%	送迎時や電話連絡等で情報共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20.0%	80.0%	0.0%	ペアレントトレーニングは行っていないが、その都度相談や助言は行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%	0.0%	0.0%	書類に沿って説明しご納得いただいた上で署名・捺印をいただいている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	90.0%	10.0%	0.0%	保護者様の抱えている悩みや相談については、相談毎に支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0.0%	20.0%	80.0%	感染症予防の為、未実施
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%	0.0%	0.0%	寄り添いながら傾聴や助言を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50.0%	50.0%	0.0%	会報等は行っていないが利用状況に応じて予定を決定しているため、予定等は個々にお伝えし、活動の様子は個々にSNS等で発信している。
	35	個人情報に十分注意している	100.0%	0.0%	0.0%	個人情報は、鍵付きロッカーに収納し、日頃から個人情報の取扱いに配慮している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	80.0%	20.0%	0.0%	絵・写真・実物等の視覚的手掛かりを用いる等して子どもの特性に合わせて伝わりやすいように工夫している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0.0%	50.0%	50.0%	感染症予防の為、未実施

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80.0%	20.0%	0.0%	マニュアルを整備し、玄関に吊り下げており、誰でも手に取って確認できるようにしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%	0.0%	0.0%	年2回の避難訓練を実施しており、都度職員間で避難経路や方法の確認をしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%	0.0%	0.0%	虐待防止委員会を設置しOJTを行うなど、虐待防止に取り組んでいる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100.0%	0.0%	0.0%	身体拘束が必要な場合は、職員間で会議を行い、三原則を確認し書類を作成後、保護者様の同意説明を得て行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100.0%	0.0%	0.0%	アセスメント時に必ず確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%	0.0%	0.0%	ヒヤリハット活動を虐待防止委員会でやっている。